



「平成」のおわりに

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

私は、A先生のことを思い出しました。

○A先生との思い出

A先生は初め、放っておいてほしいオーラ全開で、私が話をし始めると頭が痛そうな表情をしました。それは、先生をほめている時もあまり変わりませんでした。

それが東日本大震災を契機に大きく変わったのです。A先生は、一生に一度も経験しないような精神状態に追い込まれました。A先生の故郷は被災し、家族と連絡が取れず、安否不明の日が続いていました。そのうえ、勤務校でも子どもたちの安否確認に追われたのです。

このとき、A先生は生まれ変わりました。この仕事を必死の形相でやり遂げたのです。数日後、ご家族とクラスの子どもたちの無事が確認できました。緊張の糸が切れた先生の頬に、大粒の涙が流れました。

「よかったね。がんばったね」

そして何と、A先生は、これまで指導を敬遠していた私に、「ご指導お願いします」と言ってきたのです。今度は私のほうが涙を流してしまいました。

初任者指導が終わろうとしている時、A先生から長文のお手紙をいただ

「平成」がまもなく終わろうとしています。この新米先生シリーズを連載している私としては、感慨無量なものがあります。というのは、国による初任者研修制度が平成元年度からスタートしたからです。まさに、平成とともに歩んできたと言っていいいでしょう。

私は平成元年度、初任者指導担当を仰せつかりました。以後管理職の期間をのぞき、ずっと続けてきています。指導にあたった先生には、今も連絡を取り合っている方が少なくありません。新米どころか、中堅として活躍している先生も大勢います。

あるとき私のブログに、次のようなコメントが寄せられました。

「初任者にも個性がありますね。進んで関わりを望み質問してくる先生もいれば、放っておいてほしい雰囲気を出す先生もいます」



子どもと動き回れる。子どもと感覚がぴったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のブログ」を執筆中。

きました。掲載の許可をいただきましたので、抜き書きですが、紹介いたします。

○A先生からの手紙

初め私は、一生懸命仕事をしているつもりでしたが、それが子どもに伝わらず、苦しんでいました。toshi先生が子どもたちと向き合う姿を見るたびに、うらやましく思いました。そこには、私には見せない、子どもたちの笑顔があったからです。

一学期は、toshi先生からの指導を淡っていました。自分の至らない点を指摘されるのが、向上への一歩だとわかっていても、自分の不十分なところを知るのがつらかったです。しかし、夏休みに親元で過ごした時、この壁を乗り越えなければと自分に言い聞かせました。「この苦しみをしっかりと受け止めたい」「toshi先生のような先生に近づきたい」その一心で、私は自分を変えようと決めました。

二学期になると、「自分の課題と向き合い、行動する」ことを自分に言い聞かせました。教員とはこんなにも神経が研ぎすまされるのだとは思ってもありませんでした。私は一日一日を必死に生きていました。その結果、子どもがかわいいと感じられるようになりまし

た。そして、「toshi先生に私の未熟なところを忌憚なく言っていたきたい」と思えるようになりました。だから、震災に遭った時も、いつも通りご指導いただきたいと思えました。先生からのご助言はすべて自分のため、子どものためになると思えたからです。

3月11日、世界最大規模の地震が日本を襲いました。私は仕事のことを考えられなくなりました。よく見慣れた故郷が壊滅していることに動揺をかくせませんでした。toshi先生はそんな私を自分のことのように心配してくださいました。私は胸がいっぱいになると同時に、心が軽くなりました。

先生には感謝の気持ちでいっぱいです。先生が私に見せてくださったことを子どもたちにしてあげられる先生になることを目指して、これからも頑張ります。

○手紙を読んで

A先生の気持ち、変容がよくわかる手紙で、ほんとうにうれしく思いました。手紙を読んでわかったのですが、A先生の変容は、災害がきっかけではなかったのです。以前から、学ぼう、向上しようという強い気持ちがあったようです。そして、そうすることが、自身の生きがい、ひいては幸せにつな

がっていることに気づいたようです。

今、新米先生の中には、A先生と同じような悩みを抱えている方も少なくないでしょう。「こうありたい、こうしたいいけない」といった自我は、とりあえず脇において、目の前の子どもたちが何を望んでいるかを第一に考え、そんな先生であってほしいと思います。

「平成」は、天皇家がおっしゃったように、戦争のない時代でした。しかし、大災害には何回も何回も見舞われました。そのたびに、A先生と同じような苦しみを体験した新米先生もいるでしょう。でも、その困難さに挑戦して乗り越えたとき、真の喜び、充実感が味わえるのではないのでしょうか。

新しい時代が、喜びや充実感にあふれる日々になるよう願っています。

